

2007年のサンカクフジツボのホタテガイ新貝及び稚貝への付着状況

吉田達

目 的

2007年にサンカクフジツボがホタテガイに大量付着したことから、付着状況を明らかにする。

材料と方法

久栗坂実験漁場のホタテガイ養殖施設から2007年10月4日に目合7分の丸籠で育成中の2006年産貝を、9月29日に目合2分のパールネットで育成中の2007年産貝を、平内町小湊地区の漁業者のホタテガイ養殖施設から10月18日に耳吊りで育成中の2006年産貝をそれぞれ入手して、サンカクフジツボの付着状況を調べた。

結果と考察

久栗坂実験漁場の2006年産貝はほとんどの個体にサンカクフジツボが付着しており、貝殻全体に大量付着している個体も見られた(図1)。ほとんどが殻長1cm以下の個体であるが、殻長1cmを超える大型個体も見られた(図2)。サンカクフジツボの付着により、内面着色を呈している貝も見られた(図3)。貝殻内面にサンカクフジツボが付着した貝は外套膜も後退していた。2007年産貝にもサンカクフジツボの付着が見られた(図4)。殻長1cmの大型個体でも軽く叩くと簡単に剥がれたことから、付着力はそれほど大きくないと考えられた(図4)。

平内町小湊地区の漁業者の2006年産貝は久栗坂実験漁場よりもサンカクフジツボの付着が激しく、貝殻周辺部への大量付着により貝殻を閉じることのできない貝も見られた(図5)。内側には広範囲に渡って内面着色が見られていることから、これらの症状を呈している貝は翌年の成貝出荷時までにはかなりへい死すると考えられた(図6)。

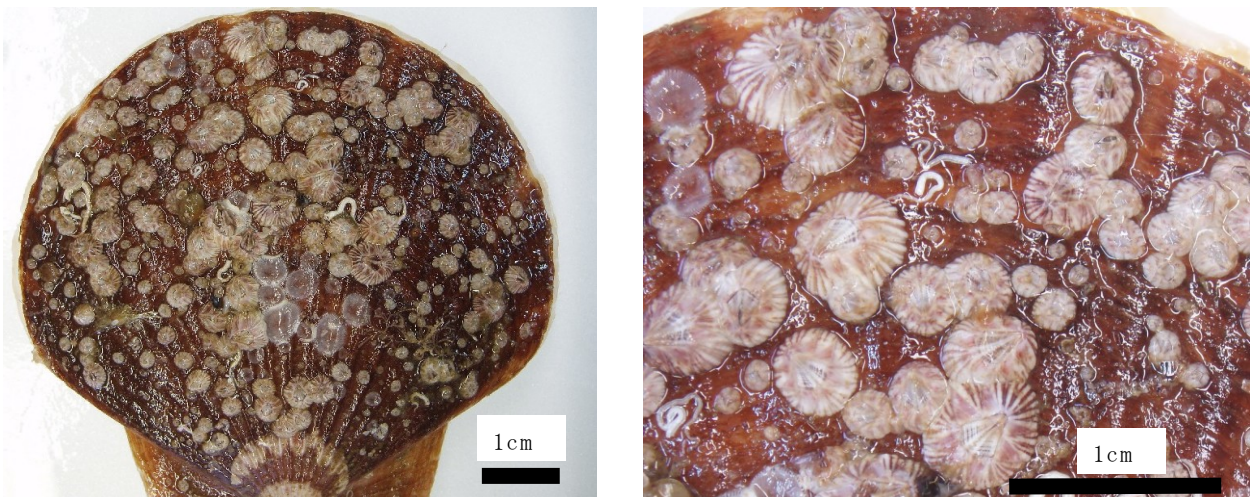


図1. 久栗坂実験漁場の2006年産貝に大量付着したサンカクフジツボ(右は拡大)

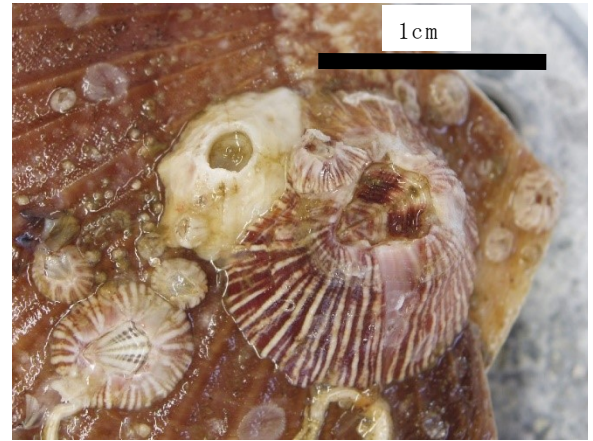


図 2. 久栗坂実験漁場の 2006 年産貝に付着したサンカクフジツボ（矢印は殻長 1cm の大型個体、右は左①の貝の拡大）

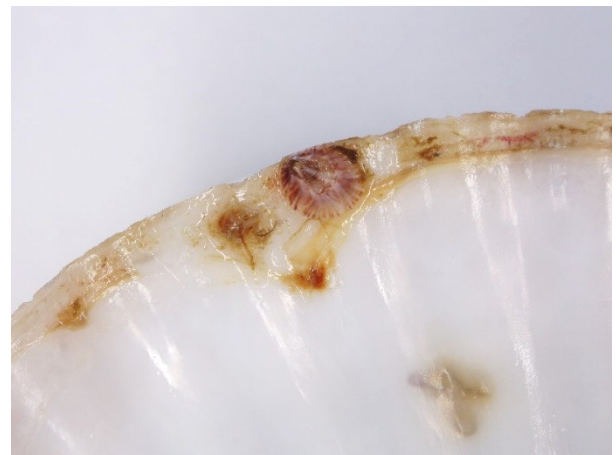


図 3. 久栗坂実験漁場の 2006 年産貝のうちサンカクフジツボの付着により内面着色を呈した貝（左は貝殻外側に付着した貝、右は貝殻内面へ付着した貝）

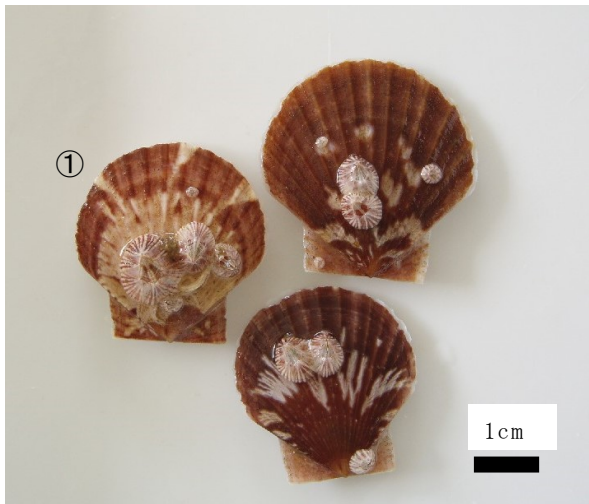


図 4. 久栗坂実験漁場の 2007 年産貝に付着したサンカクフジツボ（右は左①の貝のサンカクフジツボを剥離した状態）



図 5. 平内町小湊地区の漁業者の 2006 年産貝に付着したサンカクフジツボ（左は貝殻全体、右は貝殻周辺部の付着状況）

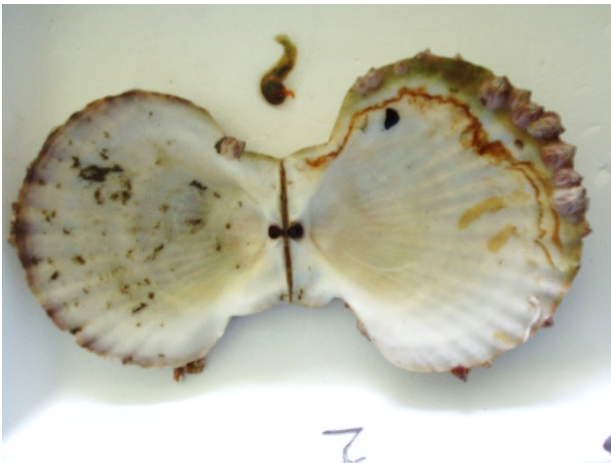


図 6. 平内町小湊地区の漁業者の 2006 年産貝のうちサンカクフジツボの付着により内面着色を呈した貝（左は貝殻内面全体、右は貝殻内面にサンカクフジツボが付着し内面着色を呈している部分）